

10 教員採用試験について

1. 公立学校教員採用試験について

各都道府県・指定都市ごとに実施される教員採用試験は、正式には「公立学校教員採用候補者選考試験」といい、その目的は募集要項で「公立学校教員を志願する者について、その採用にあたって選考の資料を得ること」という説明がなされています。これは、単なる競争試験ではないことを意味し、この試験があくまで採用予定者のリストを作成するための試験であって、採用者を最終決定する試験ではないということです。従って、この選考試験に合格したとしても、必ずしも4月1日に採用される保証はありません。この点が他の就職試験と異なるところです。

試験方法は都道府県によって多少異なりますが、筆答試験（一般教養・教職教養・専門教養）・論作文・面接・適性検査・実技試験などについて、一次・二次に分けておこなわれるのが通例です。この一次・二次試験を経て、合格者が決定され、採用候補者名簿に登載されます。実際の任用はこの採用候補者名簿に基づき、学校数の推移、退職教員数など欠員状況の把握、地方財政の動向などを勘案した上で、最終的には教育委員会・採用学校長の面接を経て、順次採用が決定されます。

ここで注目したいのは、名簿登載の有効期限が限られていること、通常1年間という都道府県が多く、この期間内に採用通知がこなければ、自動的に候補者としての資格を失い、教員になるためには再度試験を受けなければならないことです。

東京都の場合、選考合格者はほぼ4月1日に採用されますが、期限付きとなった場合は、その年度のみの採用となり、再び採用選考を受けることとなります。ただし、一般とは別の特別選考という形をとります。

教員採用試験の新傾向

文部科学省は各教育委員会に対し、教員の採用について改善・充実を求めています。これは少年非行の増加、校内暴力という社会的背景から教育そのものの資質が問われるとともに、教育内容や指導方法の多様化を推進することを重視したことです。

その結果、各都道府県で次のような点が重視されるようになりました。

教員採用のあり方の多様化を図る。

作文・小論文を課して、知識や学力のみを重視するのではなく、教師としての資質をみる。

集団面接・討論の導入や十分な面接時間の確保により、教育者としての使命感や実践的な指導力をみる。

クラブ活動・ボランティアや教育実習履修状況について積極的に評価する。

つまり専門の知識があっても、授業以外の指導には情熱も使命感も持っていない教師は困るというわけです。いま教師に求められることは生徒指導も含めた多様な課題に柔軟に対処できる実践的な指導力です。また、児童生徒の生きる力となるような教育内容、指導方法の工夫を積極的にしていく教師が求められています。

2. 私立学校の教員採用について

私立学校は、学校ごとに募集、選考を実施しているため、各自で直接学校へ問い合わせたり、採用を申し込んだりすることになります。ここでは、私立学校の教員を目指すための効果的な方法をいくつか紹介します。

私学教員適性検査の受検

東京都、群馬県、静岡県、愛知県、兵庫県、広島県、福岡県、長崎県などの私立学校協会では、毎年「私学教員適性検査」を実施しています。

適性検査は採用の合否を決めるものではなく、各学校が採用をする際の参考資料とするもので、私立学校協

会は適性検査実施後、受験者名簿を作成し、優先的に採用されるように要望書を添えて各私立学校に送付しています。各学校は、この名簿の中から採用候補者を選び、直接本人に連絡を取って面接などをおこなうことが多いようです。

志願者名簿への登録、履歴書の登録

神奈川県、埼玉県、千葉県などでは、私立学校協会は、希望者の登録のみをおこなっています。

履歴書の他に小論文を添付して申請するが多いので、この小論文には力を入れたいところです。

注意事項

都道府県によって対応や方法が異なるため、該当する都道府県の私立学校協会（私学協会）で確認してください。

3．本学に届いた教職の求人について

本学に届いた教職の求人は、就職支援センターのホームページの「求人情報」に掲載していますので、以下のURL にアクセスして、各自、確認してください。

就職支援センターホームページ <http://www.career.otsuma.ac.jp/>

4．クラブ活動、ボランティア活動の勧め

近年の教員採用試験では学力だけではなく、豊かな社会経験や教員としての意欲、使命感を評価するため、多くの自治体においてクラブ活動・ボランティア活動の経験等を把握したり、面接において聴取しています。出願時の書類に中学、高校、大学時代のクラブ活動やボランティア活動の経験について具体的に記入する欄を設けているところもあります。

大学在学中にはできるだけ多くの経験を積み重ね、人間形成に努めてください。積極的にスポーツや文化サークル、ボランティア活動等に参加し、リーダーシップや協調性、責任感、判断力、人間愛等を養ってほしいと思います。

なお、様々なボランティア活動の中でも、学校や地域で子どもと関わる活動が特に重視される傾向があります。各自治体から送られてくる学習支援ボランティアや放課後ボランティアの募集のチラシは教職総合支援センターの掲示板に掲示しますから見るように心がけてください。

教職総合支援センターでは、上記のような教育関係のボランティア活動を学生の皆さんに紹介しています。積極的に連絡をとってみましょう。

5．特別講座について

本学では公立学校教員採用試験の受験者のために、教員採用試験特別講座を計画し、実施しています。

2年次の10月中旬に教師という職業の魅力や教師としての心構え、公立学校教員採用試験の対策等について、外部講師を招いて、種々の情報の提供を主にした講座（オリエンテーション）を実施する。（児童学科では1年次から）

3年生を対象に7月下旬から8月上旬に基礎講座を実施する。

3年生を対象に10月下旬から11月上旬に、教員採用試験の傾向と対策講座を実施する。

3年生（新4年生）を対象に12月～次年度8月下旬に論作文対策講座を実施する。

3年生を対象に2月下旬に、応用講座を実施する。

4年生を対象に6月下旬・8月中旬に、面接対策講座を実施する。

なお、令和元年度の実施内容は以下の通りです。

一般教養（人文） 一般教養（社会） 一般教養（自然） 教育原理
教育心理学・教育評価 教育史・道德教育 教育方法・特別活動 教育法規 教育課題
教育課程・教育相談 生徒／進路指導論 家庭科教育法 国語科教育法 英語科教育法
論文作成 教員採用試験の傾向と対策（基礎）（応用） 模擬試験

6．公立学校教員採用試験の願書提出から採用まで

受験願書の取り寄せ（各自で受験地の教育委員会から要項を取り寄せる。東京都は大学で配布することもある。）

受験の申し込み〔受験願書にそれぞれ必要事項を記入して提出。出願の際、免許状取得見込証明書等が必要な場合もあるので時間に余裕をもって手続き（申し込み）をすること。〕

受験（一次・二次）

受験結果の報告（一次・二次とも必ず結果を資格支援グループに報告すること。）

7．教員採用試験の結果報告について

教職課程履修者は、「教員採用試験結果報告書」を提出してください。

教員採用試験に合格し採用が決定（内定の時点でよい）した場合は、決まり次第「教員就職者報告書」を各キャンパスの資格支援グループに提出してください。

また、卒業後に教員採用試験を受験し、合格した場合や、教員（講師を含む）に就職が決まった場合は、その都度郵送または持参で報告書を提出してください。（用紙を紛失した場合は、電話連絡でも可）

就職後、転勤・退職等により勤務校、現住所に変更があった場合は、その都度ご連絡ください。

なお、講師となった場合は、「教員就職者報告書」には採用期間・職名・身分を記入して提出してください。

例 1) R5.6.1～R5.10.31

産休代替教員、非常勤講師

例 2) R5.4.1～R6.3.31

期限付講師、常勤講師

8 . 卒業後の連絡先の登録

卒業後も教職に就くことを強く希望し、引き続き教職総合支援センターで教員採用試験に係る受験指導、相談、情報の提供などを受ける場合は、各キャンパスの資格支援グループに「卒業・修了生登録票」を提出してください。

提出先

【千代田校】

〒102 8357 東京都千代田区三番町12番地

大妻女子大学 資格支援グループ

電話 03 5275 6319